

「高校生の男女共同参画に関する意識調査」結果のポイント

◆ 調査概要

1 調査対象

県立高等学校5校の高校2年生 1,309名（内訳：女性676名、男性600名、不明・無回答33名）

2 調査実施

平成25年10月～11月

3 調査項目

- ① 職業について
 - ・ 将来つきたい職業 ・ 転職、離職に関する考え方 等
- ② 進学・就職について
 - ・ 高校卒業後の進路 ・ 進学先として考えている専門分野 等
- ③ 男女共同参画社会について
 - ・ 男女共同参画に関する意識 ・ 女性が職業を持つことに関する意識 等
- ④ 家庭や周囲の状況について
 - ・ ロールモデルの有無 ・ 保護者の男女共同参画意識の状況 等
- ⑤ 将来について
 - ・ 将来の生活設計 ・ 理想と考える働き方

1 男女共同参画に関する意識について

- ◆ 「女らしい振る舞い、男らしい振る舞い」という固定的な性別意識は、男女とも肯定的。
- ◆ 「家事・育児は性別に関わりなく参加すべき」という意識は、男女とも肯定的で、女子にその傾向がより強くあらわれた。
- ◆ 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という固定的な役割分担意識に対しては、男女とも否定的で、女子にその傾向がより強くあらわれた。（図1参照）
- ◆ 子どもが小さい間の育児に関しては、母親が担うべきという意識が依然として強く、女子にその傾向がより強くあらわれた。（図2参照）

※ 女性回答者は「女子」、男性回答者は「男子」と記述する。（以下同じ。）

図1 夫は外、妻は家庭

(N=1309、女性n=676、男性n=600)

※ 「不明・無回答」は記述していない。（以下同じ。）

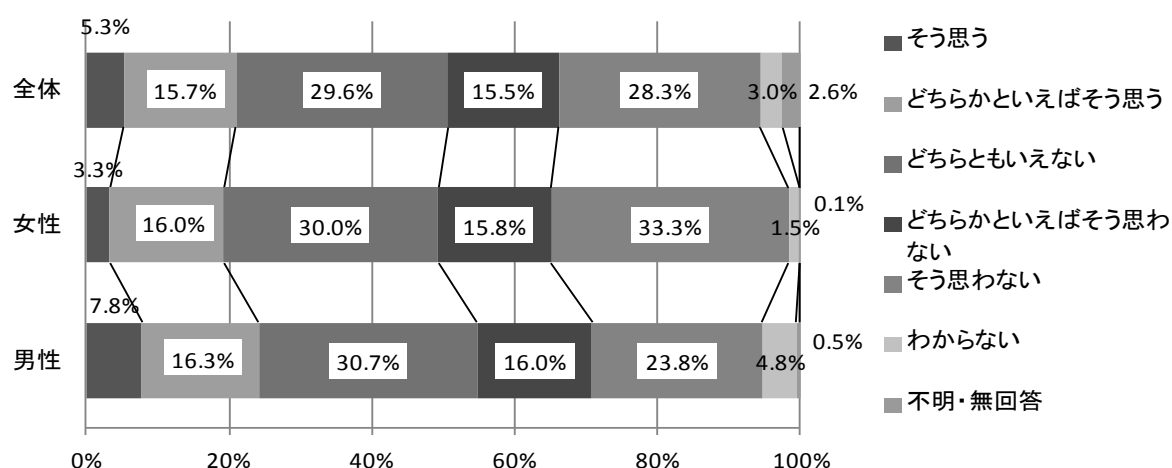
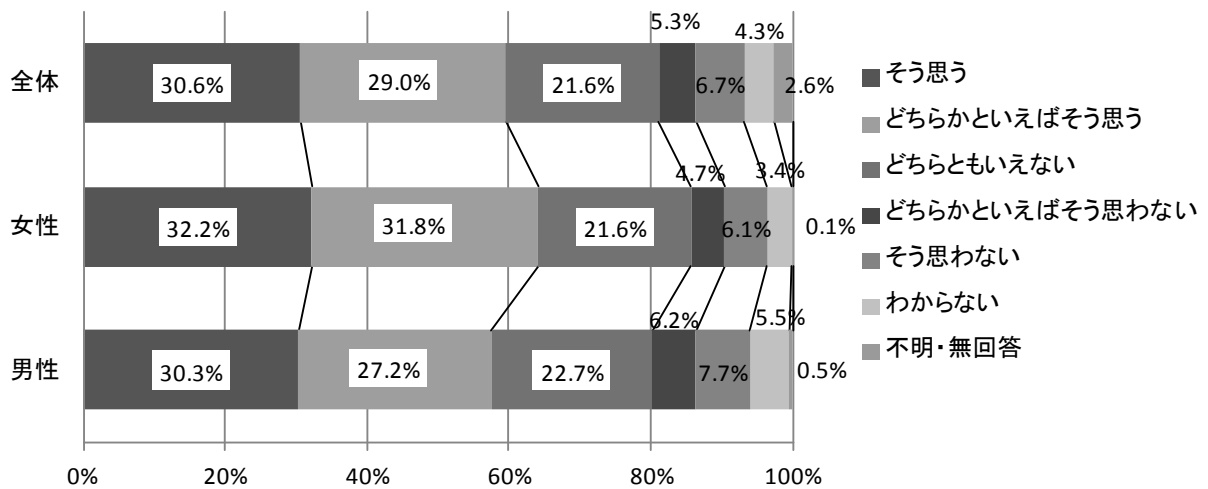


図2 子どもが3歳ぐらまでは母親は育児に専念 (N=1309、女性n=676、男性n=600)



2 女性が職業を持つことに関する意識について

- ◆女性の就業を「結婚・出産まで」と考える人の割合が「職業を持ち続けることはあたり前」、「ずっと職業を持ち続けるほうがよい」と考える人の割合を上回り、その傾向は女子に大きくあらわれている。(図3参照)
- ◆女性の就業を「結婚・出産まで」と考える人では、子どもが小学生になったころに再就職する場合には、パートタイム、アルバイトなど非正規雇用が望ましいと考える人が女子は7割に近く、男子は5割台後半。(図4参照)
- ◆女性の就業に関する意識に最も影響を受けたのは、「女性の保護者」からであり、特に女子にその影響が大。(図5参照)

図3 女性が職業を持つことについての意識 (N=1309、女性n=676、男性n=600)

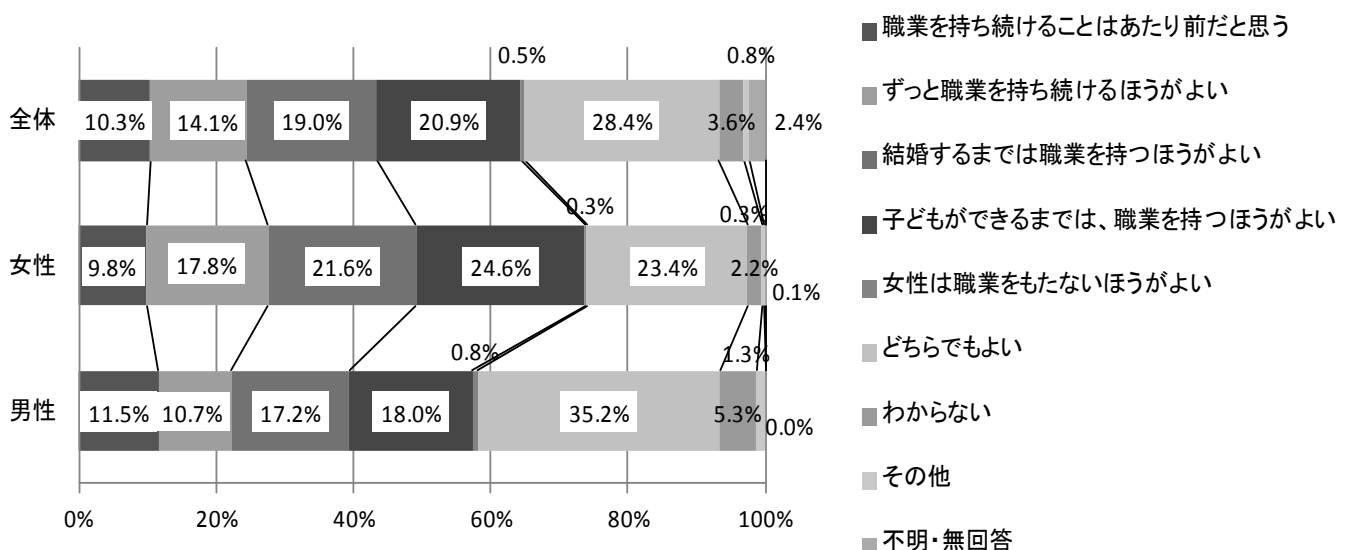


図4 女性が再就職することについての意識 (N=523、女性n=312、男性n=211)

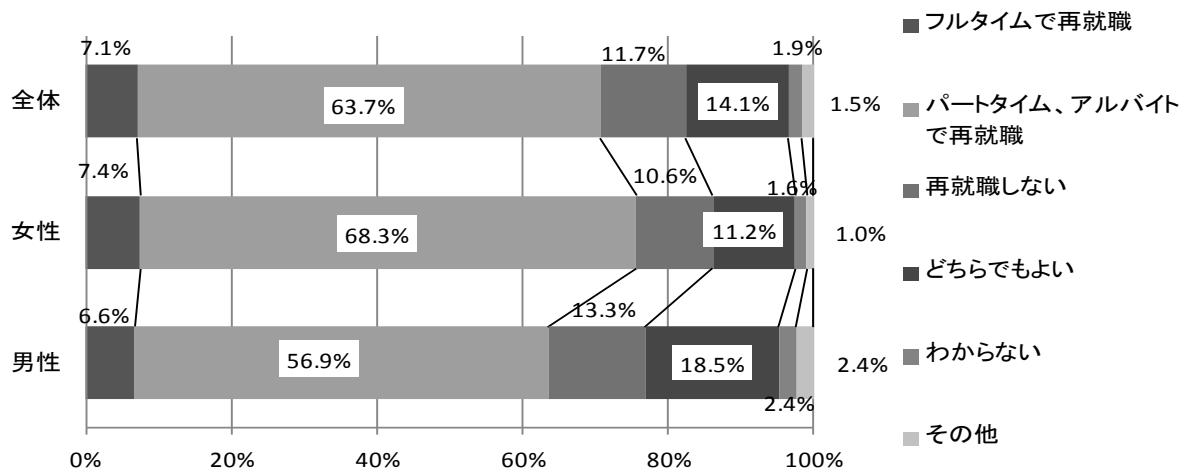
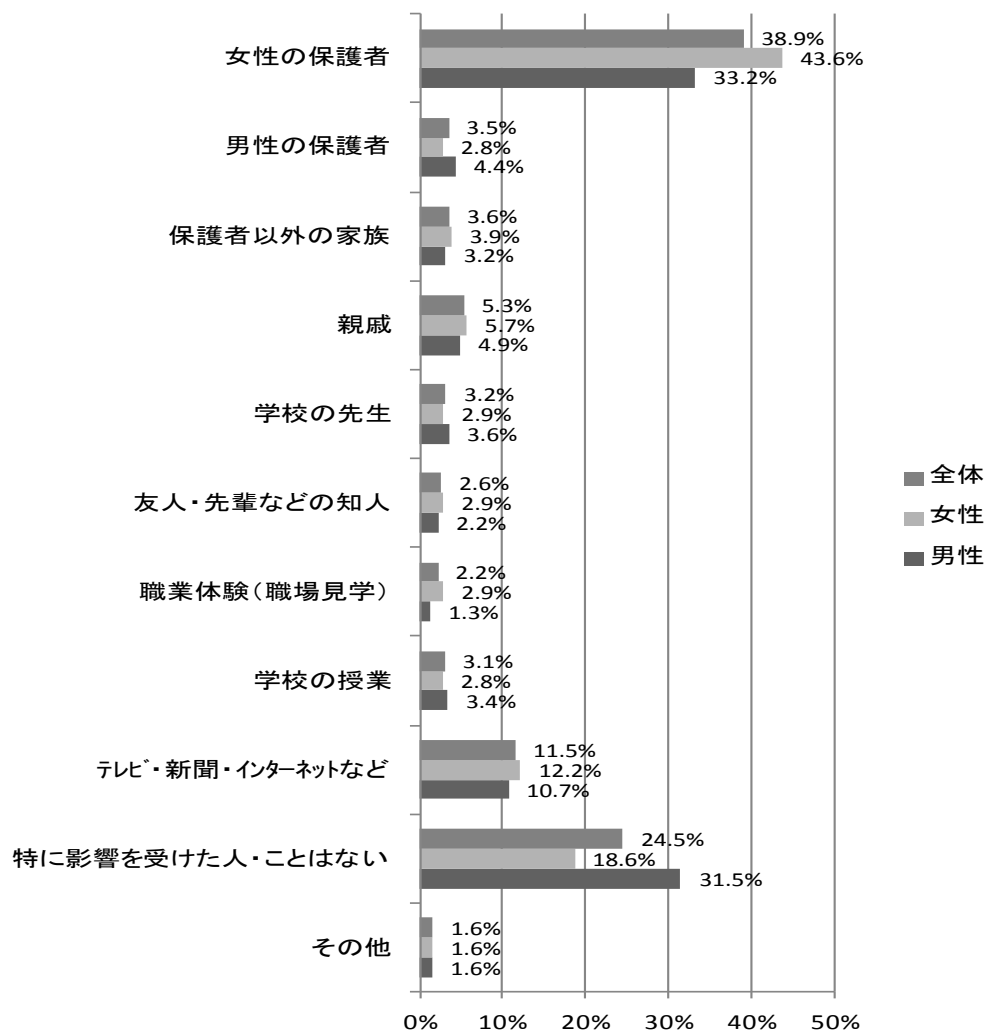


図5 影響を受けた人・影響を受けたこと (N=1309、女性n=676、男性n=600)

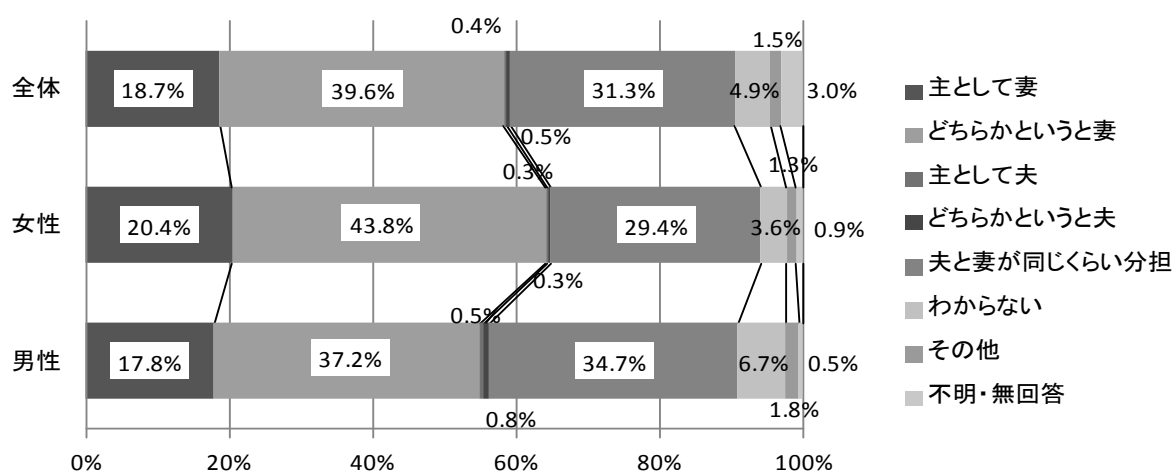


3 将来家庭を持った場合の家事、育児の担い手について

- ◆家庭を持った場合の家事の担い手は、「主として妻」、「どちらかというと妻」を合わせると6割近くが「妻」と考えており、女子が男子を上回る。また、家事は「夫と妻が同じくらい分担」と考える人は約3割で、男子が女子を上回る。（図6参照）
- ◆家庭を持った場合、育児は「夫と妻が同じくらい分担」と考える人は5割に近く、女子が男子を上回る。

図6 家事の担い手

(N=1309、女性n=676、男性n=600)

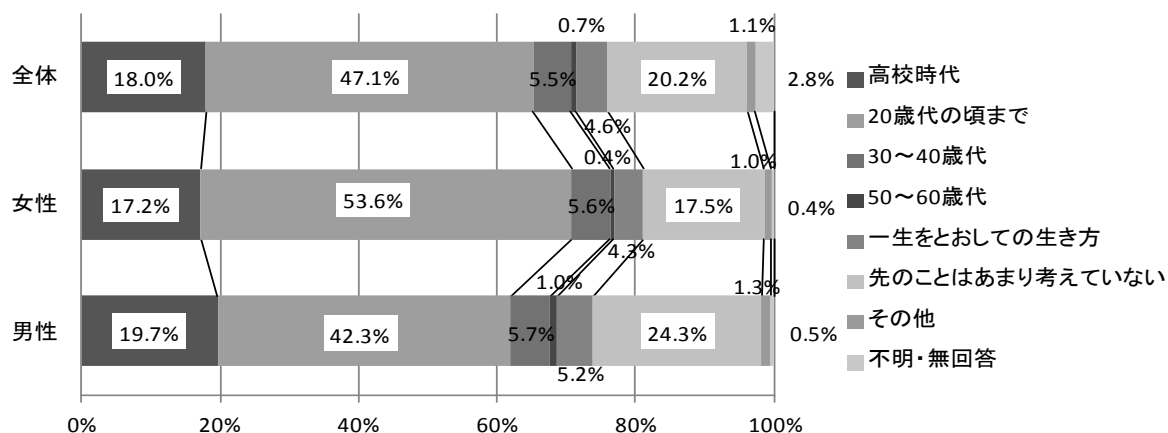


4 将来について

- ◆長期的な将来像を持っている人は少なく、比較的近い将来の見通しを持つ人や先のことを考えていない人が多数である。（図7参照）
- ◆「理想と考える働き方」は「仕事と家庭を両立し、どちらも充実した生活のできる働き方」が3割台で最も高い。

図7 将来の生活設計

(N=1309、女性n=676、男性n=600)



5 高校生の意識に対する影響について

高校生の男女共同参画意識や女性の就業に関する意識がどのような要因により影響を受けているのかを確認したところ、次のような結果であった。

《保護者の影響が大きい》

- ・ 男女共同参画に関する意識や女性の就業に関する意識については、女子、男子とも保護者、特に女性の保護者の影響が強くあらわれている。
- ・ 保護者の男女共同参画意識だけではなく、子どもころの女性の保護者の働き方や家庭における家事分担などの家庭環境が、高校生の男女共同参画や女性の就業に関する意識に影響を与えているものと考えられる。
- ・ 家族との会話の有無など、日頃の家族との関わり方も高校生の意識に影響を与えている状況が見受けられた。

《ロールモデルの存在も要因の一つ》

- ・ ワーク・ライフ・バランスについてのロールモデルが周囲に存在していることも高校生の意識に影響を与える要因の一つと考えられる。
- ・ ただし、現時点では、保護者が主にその役割を担っており、家族以外にロールモデルがいるという人は少ない状況にあった。

《男女共同参画に関する学習が一定の効果》

- ・ 男女共同参画に関する学習が固定的な役割分担意識の解消に一定の効果があることが確認された。
- ・ また、その内容に対する理解度が影響を与えている可能性がうかがえる。

《将来の生活設計の必要性》

- ・ 男女共同参画意識は、将来の進路や働き方を考える際の指標の一つとなっている状況がうかがえた。
- ・ 将来について考えているかどうかは女性の働き方の選択に影響を与える可能性も見受けられた。